

ライフ&ビジネス ソリューション事業 (LBS事業)

2030年度に目指す姿と足元の概況

Daigasグループでは、エネルギー事業で培った技術や事業ノウハウを活かし、エネルギー事業と異なる事業を展開することで、事業リスクの分散に取り組んできました。特に、原油価格、為替の動向が不透明な昨今においては、安定した収益源として、Daigasグループの収益基盤を支える上で大きな役割を果たしています。

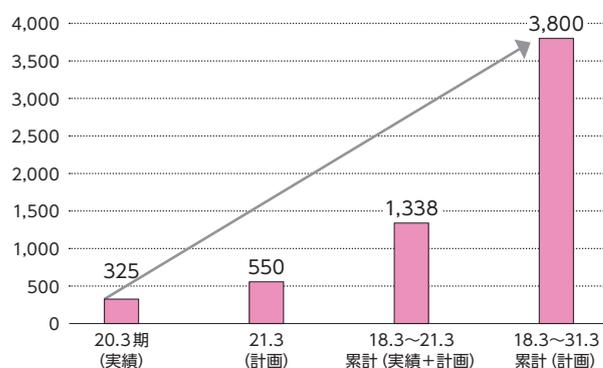
2030年度に向けて、さらなる利益の増加を目指し、「都市開発事業」、「材料ソリューション事業」、「情報ソリューション事業」をLBS事業における3本の柱として成長を加速させていきます。

2020年3月期の実績

売上高 **2,194** 億円 セグメント利益* **196** 億円

※ 営業利益+持分法による投資損益

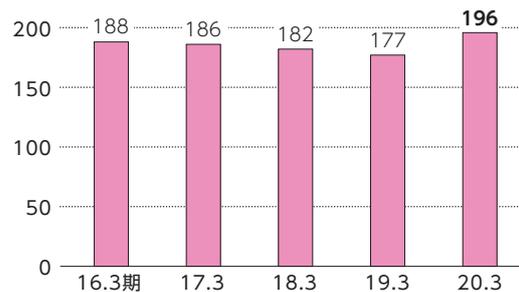
LBS事業における成長投資の推移 (億円)



売上高* (億円)



セグメント利益* (億円)



※ 2019年3月期より、大阪ガスエンジニアリング(株)のセグメントをLBSから国内エネルギー・ガスに変更。2018年3月期の実績は、変更後の内容で記載。2018年3月期より、持分法適用会社であるSumisho Osaka Gas Water UK LimitedのセグメントをLBSから海外エネルギーに変更。2017年3月期の実績は、変更後の内容で記載。

都市開発事業 — 大阪ガス都市開発グループ

事業の概要と特徴

分譲・賃貸マンション、オフィスビルなどの物件の開発、建物・施設の運営管理など、不動産事業を幅広く展開しています。

持続的な成長に向けた取り組み

既存事業の収益基盤を強化するとともに、事業メニューの拡充、首都圏での事業拡大により、新たな収益獲得を目指します。

具体的には、不動産開発事業におけるDaigasグループの強みを活かした新規案件の取得、既存案件の収益性向上、ビルメンテナンス事業における総合ファシリティマネジメントサービスの提案、リサーチパーク事業におけるKPR10号館の着実な開発推進などに取り組めます。

開発物件の短期売却などの新たなビジネスへのチャレンジ

事業メニュー
充実による
収益獲得

着実な
収益基盤
強化

首都圏での
事業拡大

- 賃貸住宅への継続的な投資
- 分譲住宅の安定的な利益獲得
- 物件経年劣化に対応した計画的な修繕投資
- ビルメンテナンス（施工管理・省エネルギー・工事）に加え、バックオフィスなどの幅広い提案による利益獲得
- 新棟建設などの保有地開発の推進

- 賃貸住宅の投資加速
- 分譲住宅事業の開始
- オフィスなど住宅以外のアセット取得に向けた活動

2030年度に目指す姿

関西圏に加え、首都圏での事業拡大により、賃貸・分譲・メンテナンスなどの多様な領域で活躍する企業グループを目指します。



塚口



日本橋水天宮



菊川



真田山

大阪ガス都市開発グループ紹介

大阪ガス都市開発(株)

大阪ガス都市開発(株)では、「シーズ」ブランドで展開する分譲マンション、「アーバネックス」ブランドで展開する賃貸マンションおよび賃貸オフィスの開発を進めています。

(株)大阪ガスファシリティーズ(OGFA)

(株)大阪ガスファシリティーズは、オフィスビル、病院、研究施設、工場といった施設において設備運転管理・警備・清掃などの総合管理サービスを提供しています。また、修繕工事・大規模改修工事から省エネルギー・CO₂削減・エネルギーの見える化まで、建物・施設に関する様々なお客さまのニーズに対応します。

京都リサーチパーク(株)(KRP)

京都リサーチパーク(株)は、約400にのぼるベンチャー企業や団体などが入居する産業集積拠点で、オフィスやラボの提供に加え、京都府・京都市や大学との連携による新事業創出活動を展開しています。幅広い分野の人や企業が集まり、新たなアイデアやビジネスが生まれる「イノベーション・ハブKRP」を目指しています。

プライムエステート(株)(PE)

プライムエステート(株)は、横浜・静岡地区を拠点とし、首都圏から東海エリアを中心に、不動産の開発事業、賃貸事業、売買仲介業を手掛けています。

「(仮称)うめきた2期地区開発事業」始動

2020年4月、大阪ガス都市開発(株)が参画する「(仮称)うめきた2期地区開発事業」が計画決定されました。

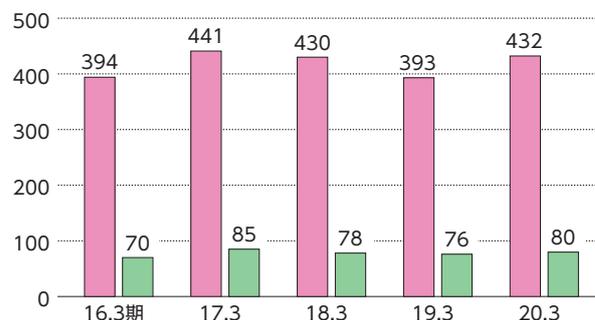
本プロジェクトにおいて、「『みどり』と『イノベーション』の融合拠点」というまちづくり方針の理念を踏まえ、うめきたから大阪、関西、そして世界をリードするまちづくりに取り組み、うめきた周辺だけではなく、大阪、関西の経済発展につながるまちづくりを目指します。

2020年3月期について

2020年3月期は、賃貸事業における物件数の増加、分譲事業における販売戸数の増加などにより、前年から増益となりました。

大阪ガス都市開発グループ

売上高 ■ セグメント利益
売上高/セグメント利益 (億円)



材料ソリューション事業 — 大阪ガスケミカルグループ

□ 事業の概要と特徴

石炭化学技術や医薬・農薬関連技術などをコアに、高機能素材の開発、製造、販売を行っています。また、2014年にJacobi Carbons AB(スウェーデン)をグループ化するなど、グローバルに事業を展開しています。

□ 2030年度に目指す姿

海外を主戦場に、ニッチ市場でトップレベルのポジションを持ち、「産業・生活・環境」に貢献する機能性材料メーカーグループを目指します。

□ 持続的な成長に向けた取り組み

多様な商品群において、付加価値の高い製品の開発・販売の拡大や、シナジーの追求、新規市場の開拓などを行うことにより、安定した収益基盤の確立、持続的な成長を目指します。

さらに、時代の変化に合わせて、継続的に事業ポートフォリオの入替えを進めます。

ファイン材料事業

光学特性・耐熱性に優れたフルオレンの多用途展開を実現

スマートフォンなどのカメラレンズ用樹脂、半導体関連素材、液晶ディスプレイ



炭素材料事業

断熱性・耐摩耗性に優れた炭素繊維「ドナカーボ」の拡販

太陽電池用シリコン製造炉向け成形断熱材



鉄道車両の吸音断熱材



活性炭事業

大阪ガスケミカル(株)、Jacobiグループの連携でグローバルにバリューチェーンを拡充

食品・酒・医薬品製造工程の精製用活性炭、空気清浄機や浄水器フィルター



シリカ・アルミナ系材料事業

吸着剤・添加剤の販売拡大と新規用途への挑戦

石油精製用活性白土、食用油精製用活性白土



保存剤事業

木材保存剤・工業用保存剤・産業用コーティング加工剤のさらなる展開

木材保護塗料「キシラデコール」、シロアリ防除剤「キシラモン」



□ 大阪ガスケミカルグループ紹介

大阪ガスケミカル(株)

大阪ガスケミカル(株)は1931年に設立され、石炭化学と医薬関連事業で培った技術を基礎にして、お客さまの製品の付加価値向上を実現する、高機能素材事業を展開しています。

水澤化学工業グループ

水澤化学工業(株)は、石油や油脂の精製に必要な活性白土を、国内で精製するため1937年に創立され、2015年にDaigasグループに加わりました。

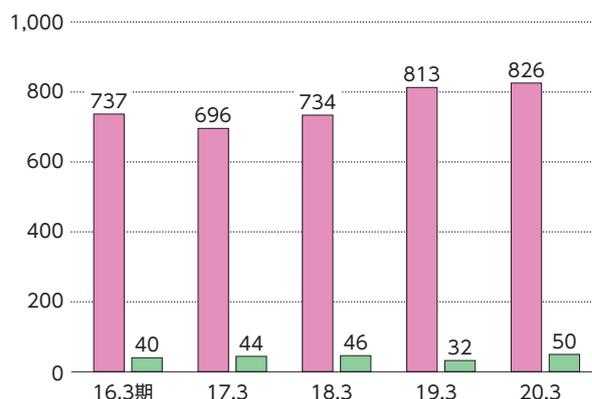
Jacobi Carbonsグループ

Jacobi Carbons ABは1916年にスウェーデンで設立された活性炭事業者で、21カ国で事業を展開しており、2014年にDaigasグループに加わりました。大阪ガスケミカル(株)とJacobiグループの合計で世界第2位の活性炭事業者になります。(2017年実績から大阪ガスケミカル(株)推計)

□ 2020年3月期について

2020年3月期は、活性炭事業における利益率の改善などにより、前年から増益となりました。

大阪ガスケミカルグループ 売上高 セグメント利益
売上高/セグメント利益 (億円)



情報ソリューション事業 — オージス総研グループ

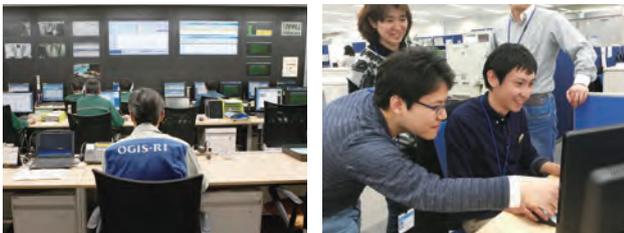
□ 事業の概要と特徴

当社の事業向けシステム開発・運用を主な業務としてスタートし、その後、M&Aにより製造業、金融業向けにサービスを提供するシステム会社をグループ化しました。各会社で保有するノウハウを共有することで、企業情報システムのコンサルティング・設計・開発・運用から、データセンター・クラウドサービス、セキュリティに至るまで、総合的なITサービスを提供しています。

□ 持続的な成長に向けた取り組み

金融、製造、エネルギーを重点分野として差別化戦略の実施、IoT、クラウド、認証領域におけるサービスビジネスの拡大に取り組めます。

培ったノウハウの適用や新技術の導入によりDaigasグループの競争力向上に貢献していきます。



□ 2030年度に目指す姿

先進的なICTイノベーションで、新たな価値を提供し、お客さまとともに持続的に成長する企業グループを目指します。



(株)オージス総研本社



□ オージス総研グループ紹介

(株)オージス総研

1983年の設立以来、Daigasグループのシステム会社として、エネルギー分野におけるITノウハウを蓄積しています。

さくら情報システム(株)

1972年の設立以来、三井住友銀行グループさま向け基幹システム構築・運用業務に携わり、金融業におけるノウハウを蓄積しています。

宇部情報システム(株)

1983年の設立以来、宇部興産グループさまの総合情報処理サービス企業として、システム構築・運営に携わり、製造業におけるIT技術を蓄積しています。

□ 2020年3月期について

2020年3月期のセグメント利益は概ね前年並みとなりました。

オージス総研グループ
売上高/セグメント利益 (億円)

